

我々はまだ水はない!! 4.23 声明の欺まらん点

4月23日各新聞紙上に20億円という日本の声明が報道された。その水の本質は次の通りである。

- ① 吳文炳総裁の辞表を受理
- ② 総裁、副会頭、学務理事の取制廃止
- ③ 小野教授の辞表を受理
- ④ 理事会に理事ではない学部長を出席させる
- ⑤ 副総長を置く

この5点である。しかし我々はこの声明の中にもっと真の意味を理解しなくてはならない。総裁、副会頭、学務理事の取制廃止は何をものかたっているのか。それは古田体制と言わねば日本大学のその体制をより強化するものほかなにもものでもない。そして、その水はより多くの学部をその傘下におこすという策動にほかならない。そしていくらの⑤の事を声明したとしてもその水は20億の点題の回答にはなっていない。そしていくらの⑤の様な形に至曲しようとする学校当局に対して、我々は断固抗ぎしなればならない。20億の点題その本質はどこにあるのか、単に⑤の事を行っただけからとてそれは何のこの点題の解決にはなっていない。そして、この水を今学校当局はしかたがないとか、むしろやむを得ないものとかという形を築きようとしている(4.23朝日新聞)と同じ時に、その水自身を⑤の点題にすりかえようとしている。20億の責任、その水はどこにあるのか、それは理事会すべてに責任を押しつけてその代表者としての古田会頭の責任がある。今こそ我々はこの問題を正しくとらえ、結着をつけるべく理事会総辞職をもちよめなくてはならない。我々は今社会にその姿勢を固めたこと水である。今までの様にありまじい形がおわり口大が口、日大株式会社……山という形で提起されたそのこと事態我々我々の運動の中で追求してゆかなくてはならないのだ。犠牲者は我々自身でありこの問題はそれこそ我々の問題として提起された水である。日大におけるあらゆる根本的な問題はこの問題を追求するなかでしか系口が見い出さねばならないのだという事を再度確認しておかなければならない。我々は今こそこの問題を断固追求して、真の大学へと発展させようではないか。

立入学友諸君

今こそ日大の民主化

をがちとれ

日本大学民主化委員会
理工学部班